

きたもとの未来地図 三宮ゆきお



発行者 三宮ゆきお後援会 北本市西高尾1-259
Tel.Fax 048-592-1376
Mail sangyu.y5111@gmail.com

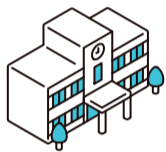
めざせ日本一子育て応援都市とは

北本市は昔から教育に力を注いできたまちでした。戦前の昭和8年には、**石戸尋常高等小学校で「郷土読本」**が編さんされています。この本は、今日の副読本のさきがけ的な本であり、かつて石戸小学校で教鞭をとられ、その後県の教育長を務められた綱島憲次氏が中心となってまとめられました。その表紙には、特産品の「石戸トマト」と往時「中山道ムギ」と言われていたイラストが描かれています。また、内容としては、蒲桜や石戸トマト、源範頼と亀御前等のお話が記述されています。

ここでは、このような教育のまち北本の伝統を受け継ぐ、今日の**教育的特徴や子育て支援策をまとめてみました**。これらは、すべてこのまちの誇りであり大きなブランドです。（新規は三宮就任後の事業）



石戸郷土読本



※事例 県内40市中

教育日本一のまち



沖縄県「宮古島市」・北海道「羅臼町」との交流のまち（新規） 県内初

子どもの学びの場として、南は**沖縄県「宮古島市」**、北は、**北海道「羅臼町」との交流**が始まりました。

今年度は、中丸小学校と羅臼町の春松小学校の交流です。流水等の擬体験をしました。来年度は、宮古島市の狩俣小学校との交流が予定されています。小学校5年生の社会科の教科書に載っている南の沖縄県、北の北海道とオンラインによる交流です。今後は物産交流も考えています。



沖縄県宮古島市



北海道羅臼町



全中学校水泳指導民間委託事業のまち（温水プール）（新規） 県内初

令和元年5月にスタートしました。学校プールの維持管理の軽減や教員の負担軽減が目的です。指導内容は、スイミングクラブ(SC)がバスで生徒をSCまで送迎し、SCの指導の下、水泳指導が行われます。引率教師もSCの指導者とともに生徒たちを指導します。民間インストラクターによる専門的な指導が受けられるのがメリットです。



水泳指導

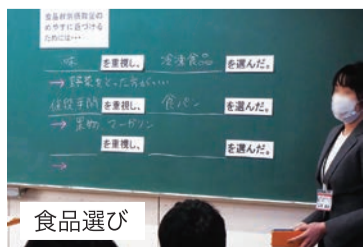
小・中学校給食完全自校方式のまち（既存） 県内数例

北本市は、**中学校の給食の提供方式を平成27年に自校方式に切り替え**ました。その理由は、センター方式で各学校に給食を配送する場合、給食が冷めてしまう問題があったからです。また、万一給食センターにおいて機器の故障、異物混入等が起きた場合に全校で給食がストップしてしまう可能性があり、既存の小学校の提供方式に合わせて、完全自校方式に切り替えました。なお、災害時においても、調理施設を備えることで調理が可能となります。

＜小中学校調理場方式＞
上尾市：中学校で一部センター方式、残り自校方式
桶川市：全校自校方式
鴻巣市：中学校で一部センター方式、残り自校方式
伊奈町：全校センター方式

栄養士小中全校配置のまち（既存） 県内初

北本市では、**平成28年より独自に全校(県費職員を除く)に栄養士を置いています**。その理由は、特定の食物に対しアレルギー反応を起こす児童生徒が少なからずおり、除去対応をしていただくためです。県費職員は3名ですから、残りの8名は、市の単独費での配置です。食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものです。他市では事例のない北本の大きな教育の特徴です。



食品選び

＜小中学校栄養士配置＞
上尾市：一部市費栄養士配置有り
桶川市：市費栄養士配置無し
鴻巣市：市費栄養士配置無し
伊奈町：市費栄養士配置無し

学校4・3・2制の取組のあるまち(既存) 県内初

学校4・3・2制は、小学校から中学校へ進学した際の「中1ギャップ」※に対応する制度です。児童生徒のメリットとして、児童と生徒が行事を通じて、直接交流ができることがあげられます。また、全国で行われる「学級満足度調査」では、**全国平均を大きく上回っています。**

なお、教職員のメリットとして、小学校の教員は、卒業生を中学でも継続的に指導ができることや中学校の教員は、これから入学する児童の様子を直接把握できることです。小学校7校7名、中学校2校2名の支援員を配置しています。市の単独費からの配置です。

※中学校へ進学した際、新しい環境になじめず、不登校やいじめが起こる現象。

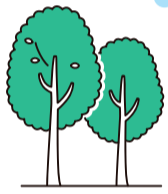
1 令和4年度hyper-QU(学校満足度調査)の結果

＜学級生活満足群 ～北本市と全国平均との比較～＞

	学級生活満足群(%)			学級生活不満足群(%)		
	北本市	全国	差	北本市	全国	差
小学4年生	53	43	+10	18	23	-5
小学5年生	60	43	+17	15	23	-8
小学6年生	53	43	+10	17	23	-6
中学1年生	53	41	+12	20	28	-8
中学2年生	53	41	+12	23	28	-5
中学3年生	50	41	+9	23	28	-5

※ 満足度は高いほどよく 不満足度は低いほどよい。

※ 赤で示した学年が432制の「3」の部分、北本はこの層に非常勤講師を配置するなど注力している。



子育て日本一応援のまち



児童館と子ども図書館の一体的な施設のあるまち(既存) 県内初

子育て世代の利便性を第一に考え、親の市役所の手続きと共に、子どもたちの遊びと学びが同一館内ででき、親世代の交流の場としても役立っています。児童館には、**大型ボールプール**や**クライミングウォール**、**サイバーホイール**等の人気遊具が設置されています。令和3年度は、コロナ禍にも関わらず1年間で2万5千人の方々にご利用いただきました。



クライミングウォール

子ども商品券3万円を贈呈しているまち(新規) 県内初



令和3年4月以降、生まれたお子さんがいる子育て世帯に、経済的支援を行うとともに、健やかな成長に資することを目的に、市独自に実施しています。北本市に住民登録があるお子さんの**出生時と1歳6か月の検診時、3歳児検診時に子ども商品券を1万円ずつ贈呈**しています。市では、これまで0歳児におむつ無料クーポン券を配布していましたが、その代替措置として新たにスタートしました。

プラネタリウムのあるまち(既存) 県他17市

北本市のプラネタリウムは、全天デジタル映像システムを使って、ドームいっぱいに広がるダイナミックな映像を投影するのが特徴です。また、プラネマイスター(解説員)による生解説を中心としたバリエーションのある投影は、子どもから大人まで幅広く天文学習ができます。子ども向けのアニメキャラクターによる番組も実施し、令和3年度、コロナ禍の中でも年間5,267人の来場者があり大変好評でした。



プラネタリウム

子ども医療費助成事業高校生(18歳)まで拡大しているまち(既存) 県他12市

子ども医療費助成事業の県基準は、小学生未満の未就学児までですが、**北本市は独自に高等学校修了の18歳まで拡大して助成**しています。昨年の10月から、医療費の現物給付の対象を県内の医療機関に拡大してサービスの向上に努めています。他の28市は、助成対象を15歳までとしています。